

## 航空機の安全運航をサポートするタブレット端末によるシステム ～「Airport Moving Map」を本邦航空会社として初採用～

- ・ 運航乗務員が機内で使用する、電子マニュアルに搭載
- ・ 航空機の現在位置を即座に確認できるシステム
- ・ 飛行計画に基づき、駐機場、誘導路、チャート図へのシームレスな連携を実現

Peach Aviation 株式会社(以下:Peach、代表取締役 CEO:井上 慎一)は、航空機の安全運航をサポートするシステム「Airport Moving Map(以下:AMM)」および「自機位置表示機能」を本邦航空会社として初めて採用し、今月より運用を開始しました。

このシステムは、運航乗務員が使用する電子マニュアル「エレクトロニック・フライト・バッグ(以下:EFB)」に新たな機能として追加して使用するものです。

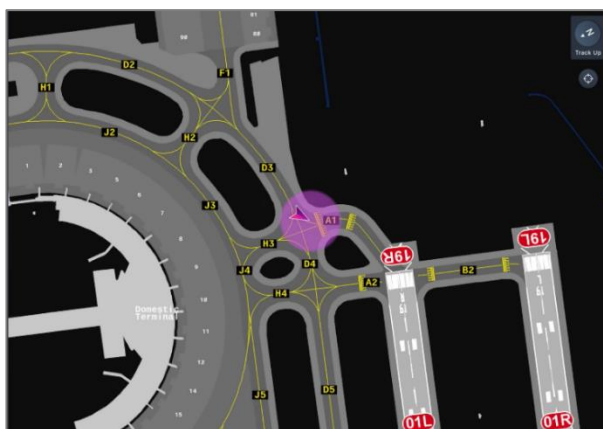
AMM は、空港の駐機場、誘導路などの詳細を把握できる機能です。これに自機位置表示機能を加えることで、大規模な空港においても、タブレット端末上の航空図で自機の位置を把握することが可能となります。これにより、運航乗務員が必要な情報を即座に入手することができるようになります。

Peachでは、2017年6月に、運航乗務員が使用する紙マニュアル類を廃止し、タブレット端末に移行しました。タブレット端末を用いることで、運航乗務員にマニュアルの変更を迅速に周知することができるほか、離発着時の機体性能を即座に計算することが可能となり、運航効率の最適化が実現できました。また、紙マニュアルの廃止により、機体重量を約21kg軽減することができ、年間6万2000ポンド(ドラム缶約180本分に相当)の燃料消費量と、約90トンの二酸化炭素排出量の削減を実現しています。

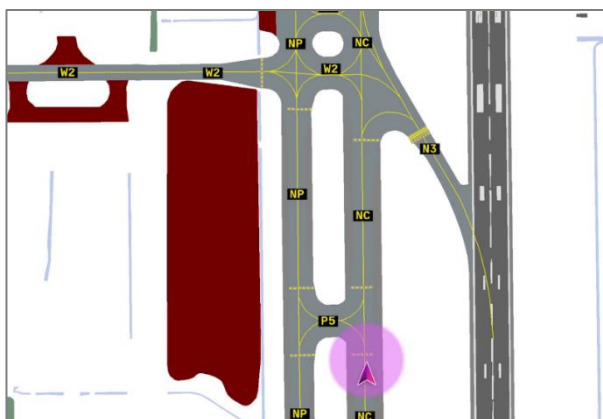
Peachは、今後もイノベーティブな最新技術を導入し続けるとともに、安全運航を追求し続けます。

<AMM、自機位置表示機能の特長>

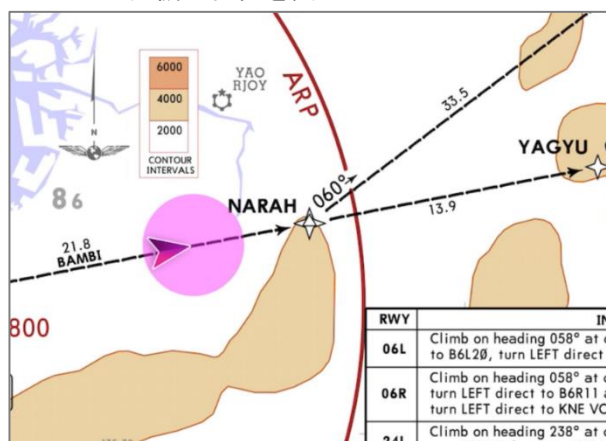
- ・各空港の詳細な滑走路、誘導路、停止線の位置、駐機場の地図をタブレット画面に表示
- ・自機位置をリアルタイムで表示



- ・工事等による長期間におよぶ誘導路の閉鎖情報も反映し、タブレット画面上に表示



- ・航空図上においてリアルタイムで自機の位置を表示



※画像提供: Jeppesen

Peach について(www.flypeach.com)

Peach は、2012 年 3 月に関西空港を拠点として運航を開始しました。現在では関西空港に加え、新千歳空港、仙台空港、那覇空港を拠点空港とし、26 機の機材で、国内線 17 路線と国際線 17 路線に就航しています。1 日あたりの運航便数は約 120 便で、毎日 18,000 人以上のお客様にご利用いただいています。Peach は成田空港を拠点空港とするバニラエアと 2019 年度末をめどに統合し、アジアのリーディング LCC を目指します。